

[観光・まちづくり分野]
総合特別区域評価・調査検討会における評価結果

令和6年度

奈良公園観光地域活性化総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i)、ii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.4

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	奈良市の観光入込客数の増加	92%	4
2	奈良市の宿泊者数の増加	90%	4
3	奈良市の観光消費額の増加	109%	5
4	奈良市の訪日外国人旅行客数の増加	137%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値

$(5 \times 2 + 4 \times 2 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 4 = 4.5$

4.5

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii)の平均値 ※『-』とされている箇所については平均値計算から除外

4.0

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

-

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.7

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見)

4.0

・前年度に引き続き、様々な面で数値目標を上回る結果が出ているのは望ましい。その要因には総合特区制度の活用を含めた奈良県の積極的な取組に加えて、外部環境の後押し、さらには地域が本来持っている潜在的なポテンシャルによるものと推測される。その潜在的ポテンシャルである観光資源の保全は持続可能な観光を目指す上で重要であるため、春日山原始林や奈良のシカを始めとする奈良公園の保全に引き続き取り組んでいただきたい。なお、数値目標のうち、奈良市の宿泊者数は滞在型観光を目指す上の目標として特に重要だと思われるが、目標値には到達していない。引き続き宿泊施設の充実を支援するとともに、朝や夜のコンテンツ造成、広域連携など、目標達成のために様々な工夫を講じていくことが望まれる。

・奈良公園の整備や周辺施設の整備によって着実に観光者数が増加しており、高く評価できる。高付加価値化の取組も継続されており今後にも期待できる。高付加価値化による質の評価は、観光客数や消費総額よりも単価や満足度、滞在日数など多面的な評価を要すると考えられる。また、今後はオーバーツーリズムや過度なジェントリフィケーションなど、高価値化・観光客増加の負の影響にも配慮が必要である。

・総合評価、ならびに別紙1で、指標(宿泊者数)が増加し目標値を上回った旨の記述があるが、進捗度は前年度が175万人、進捗度136%、当該年度は133万人、進捗度90%で、減少し目標値も上回っていない。進捗度が100%に達していない点よりも、前年度より大きく減少している点が懸念される。大規模行事の影響などの可能性もあるが、要因を把握して対策を検討いただきたい。

・まず数値目標について、「評価指標(1)観光入り込み客数」及び「評価指標(2)宿泊者数(参考数値)」ともに目標数値に達していない。しかし、別紙1においては「目標値を上回り大幅に上昇傾向(評価指標(1))」「進捗度は大幅に上昇した(評価指標(2))」との表記が見られる他、本文「総合評価」でも「宿泊者数及び観光消費額、訪日外国人観光客数のいずれも、設定していた数値目標を大幅に上回る結果となった」と記載されており、データの取扱いに疑問がある。指標を掲げて達成度を測る以上は、データの出典や取扱いは精緻に行うべきである。

・奈良公園の資源の「維持」については着実に取組が進められているものと思われるが、近年、観光との関係で「奈良のシカ」に注目が集まっている。条例において「禁止行為」を追加したとのことであるが、モニタリング調査の結果なども合わせて、引き続き有効な手立てを講じていただきたい。

・令和6年度以降、「一時的な観光のピークをつくりだすイベント中心の観光の在り方から、地域の産業の持続的な発展を見据えた「地域づくり」に方向転換を図っている」とのことで、これをより積極的に進めていただきたい。資源の「利活用」に関する取組にはイベントの字が目立つが、他方で地域独自に補助金や税制優遇などの措置を設けており活用実績もみられるので、民間の動きの質的な向上を意識して、様々な取組を行っていただきたい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(4.4+4.4 \times 2) \div 4 = 4.1$

4.1

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。